

新型コロナウイルスワクチン接種後の抗体価を測定して

～接種1回目から6ヶ月後の抗体価～

©加藤 有紀恵¹⁾、藤原 宗孝¹⁾、原 和也¹⁾、西尾 遙菜¹⁾、南谷 健吾¹⁾
社会医療法人名古屋記念財団 名古屋記念病院¹⁾

【はじめに】

新型コロナウイルス (SARS-Cov2) 感染が確認されてから約2年がたち、感染抑制にワクチンの効果が期待される。ワクチン接種は当院でも2021年3月から職員への接種が始まった。当院では2020年12月から2021年1月にかけて院内感染が発生した経緯があり、その際職員にも感染者が複数人出た。職員のワクチン接種後の抗体の産生状況、持続期間、また非感染者と既感染者での差異を検証するために職員の抗体価を測定した。

【対象および方法】

1.対象：全職員のうち研究に賛同をえられた職員、かつ接種1回目前、2週間後、2ヶ月後、6ヶ月後の各期間での採血を行った347名とする。内訳は非感染者325名、既感染者22名。それぞれの抗体価の推移を比較した。(接種ワクチンはファイザー社・mRNAワクチン)

2.測定方法：機器：ロシュ Cobas6000

試薬：ロシュ Elecsys Anti-SARS-Cov2 S RUO

*今回の抗体測定は、名古屋記念病院倫理委員会の承認を

得て施行した。

【結果】非感染者の6ヶ月後の抗体価の中央値は761.9U/mLで最大値5081U/mL、最小値3.4U/mLであった。90%の人が2ヶ月後に比べ6ヶ月後は低下した。また、6ヶ月後の抗体価の中央値は2ヶ月後の61.9%であった。既感染者の6ヶ月後の抗体価の中央値は2855.5 U/mLで最大値14788 U/mL、最小値744 U/mLであった。既感染者は全ての方が6ヶ月後の抗体価は低下していた。6ヶ月後の抗体価の中央値は2ヶ月後の25.3%であった。非感染者と既感染者の6ヶ月後の抗体価の値には有意な差があった。

【考察】非感染者、既感染者とも6ヶ月後の抗体価は低下がみられた。2ヶ月後の中央値に対しての低下率は既感染者の方が大きかったが、6ヶ月後の抗体価は既感染者が優位に高値であった。本研究は1年後の抗体価の保有状況も測定予定であるが、国内での3回目のワクチン接種の推奨もあり、状況に合わせた報告をしていきたい。

名古屋記念病院 臨床検査部 052-804-5729